

令和6年8月2日

普通期稲作情報 第3号

J A む な か た
北筑前普及指導センター

◎気象概況及び生育概況（アメダス宗像より）

7月は、平均気温が平年に比べ2.2℃高く、降水量は平年並み、日照時間は平年比124%ととても高い状況でした。現在水稻の生育は概ね平年並みとなっています。

◎品種別出穂期の予想

★夢つくし	： 8月 8日頃	（6月10日田植え・平坦地）
★元気つくし	： 8月20日頃	（6月20日田植え・平坦地）
★ヒノヒカリ	： 8月27日頃	} （6月20日田植え・平坦地）
★ツクシホマレ	： 8月31日頃	

1. 水管理（こまめな水管理で、台風・高温対策を！）

- (1) 中干し終了後～穂ばらみ期、穂揃期～落水期までは、間断かん水を行いながら、根の健全化を図ってください。
- (2) 幼穂形成期（穂肥の時期）～開花期にかけては、水稻が水を最も必要とする時期です。中干し後は間断かん水とし、特に出穂・開花期の水を切らさないよう十分注意してください。
- (3) 台風襲来時は、深水管理をして下さい。台風通過後も、水稻の水分吸収が盛んになるため、数日間は水を切らさないよう注意してください。

2. 病虫害防除

【いもち病】

一部のほ場で、葉いもちの発生が見られます。
発生を確認したほ場では、早急に補正防除を徹底してください。

【トビイロウンカ】

海外飛来性害虫のトビイロウンカの飛来日は6月24日、7月2日、7月11日です。現在のところ発生量は平年よりやや少ない状況となっています。
しかし、トビイロウンカは特に秋口から急に増殖することがあるので、今後もほ場でのウンカ類の発生状況の把握に努め、適期防除を行いましょう。

【斑点米カメムシ類】

イネカメムシが早期水稻だけでなく、出穂前の普通期水稻のほ場でもみられており、注意が必要です。発生が多いほ場では、出穂期と、出穂期の7日後の2回防除を行いましょう。また、斑点米カメムシ類の耕種的防除法として畔草刈りを出穂2週間前までに実施してください。

※出穂直前に畔草刈りをすると、畦草に生息していたカメムシを本田へ追いやることになり逆効果となりますので、早めの畔草刈りを心掛けましょう。

◎基幹防除【出穂期防除】

農薬登録状況：令和6年7月10日時点

剤型	薬剤名	対象病害虫	使用時期	散布量
粉剤	ダブルカットバリダ トレボン粉剤 3DL	いもち病、紋枯病、 ウンカ類、カメムシ類 コブノメイガ	穂揃期まで	3~4kg /10a
液剤	ダブルカットバリダ フロアブル	いもち病、紋枯病	穂揃期まで	1000倍
	エクシード フロアブル	ウンカ類、カメムシ類	収穫7日前まで	2000倍
粒剤	ゴウケツモンスター 粒剤	いもち病、紋枯病、 稲こやし病、 カメムシ類、ウンカ類	出穂5日前まで (収穫45日前まで)	3kg/10a

◎補正防除

剤型	薬剤名	対象病害虫	使用時期	散布量
粉剤	スタークル粉剤DL	ウンカ類、 カメムシ類	収穫7日前まで	3kg/10a
液剤	スタークル液剤10			1000倍
豆粒剤	スタークル豆つぶ			250g/10a
粉剤	キラップ粉剤DL		収穫14日前まで	3~4kg/10a
液剤	キラップフロアブル			2000倍
粒剤	キラップ粒剤			3kg/10a

※イネカメムシの防除には、効果の高いスタークル剤やエクシードフロアブルを使用しましょう。但し、スタークル剤については、ミツバチへの影響を回避するため、開花期での防除では使用しないで下さい。

裏面にイネカメムシの詳しい情報を掲載しております。ご確認ください。

3. ツクシホマレ穂肥施用の目安（6月20日平坦地田植えを基準）

第1回目の穂肥	NK化成2号 20kg/10a	8月8日頃
第2回目の穂肥	NK化成2号 10kg/10a	第1回施用から7~10日後

※基肥でハイエムコート30を施用している場合は、穂肥は不要です。